

学術講演会予稿集正誤表

(Errata of Proceedings)

学術講演会 (セッション番号-セッション名) (Session No. Session Name)	No.1 - 先進ガソリン機関技術 I
講演者名 所属名	飯島 晃良 日本大学理工学部
誤 (Incorrect)	(1) p. 1, 右側 2 行目 燃料にはガソリン (85 RON) を用い,
正 (Correct)	(1) p. 1, 右側 2 行目 燃料にはガソリン (91.2 RON) を用い,

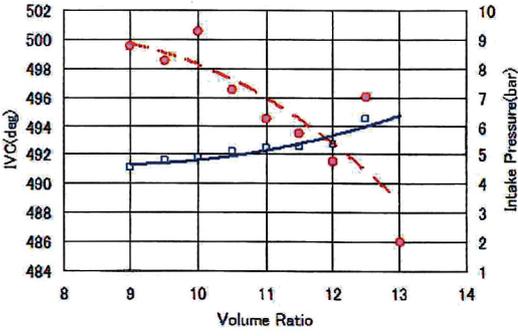
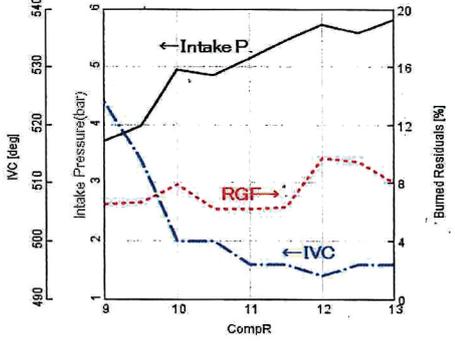
学術講演会予稿集正誤表

(Errata of Proceedings)

学術講演会 (セッション番号-セッション名) (Session No. Session Name)	No.1 - 先進ガソリン機関技術 I
講演者名 所属名	松石 宗大 日本大学大学院
誤 (Incorrect)	(1) p.5, 左側 21 行目 燃料にはガソリン (85 RON) を使用した (2) p. 6, 左側 表 2, 1 行目右 Gasoline (85 RON)
正 (Correct)	(1) p. 5, 左側 21 行目 燃料にはガソリン (91.2 RON) を使用した (2) p.6, 左側 表 2, 1 行目右 Gasoline (92.1 RON)

学術講演会予稿集正誤表

(Errata of Proceedings/Summarized Papers)

<p>学術講演会 (セッション番号・セッション名)</p>	<p>No.3 - 先進ガソリン機関技術(3) 1D-CFDシミュレータと最適化ソフトを使った BMEP30bar の高過給ダウンサイジングガソリンエンジンの可能性検討</p>
<p>講演者名 所属名</p>	<p>畑村耕一 (株)畑村エンジン研究事務所</p>
<p>誤 (Incorrect)</p>	<p>なお、高い過給圧を得るために S/C の吐出量を 1.2 倍に増加した。 容積比 9-13 において BMEP30bar を発生できるパレート解が得られたので、図 14 に EIVC の場合の結果を容積比と過給圧、IVC との関係を示す。IVC と EGR の組み合わせで複数の解が存在し、LP-EGR は 2-8% で傾向が見られない。</p>  <p>Fig.14 Potential for increasing Volume Ratio</p>
<p>正 (Correct)</p>	<p>なお、高い過給圧を得るために S/C の吐出量を 1.3 倍に増加した。 容積比 9-13 において BMEP30bar を発生できる解が各容積比毎に複数得られたので、その中から BSFC ベストの解を選択して整理した。EIVC の場合の吸気圧力、残留ガス割合、IVC の最適値を図 14 に示す。</p>  <p>Fig.14 Potential for increasing Volume Ratio</p>

学術講演会予稿集正誤表

(Errata of Proceedings/Summarized Papers)

学術講演会 (セッション番号-セッション名) (SessionNo.-Session Name)	No.21 - 自動車開発での MBD 活用の拡大 II
講演者名 所属名	嶋田 敏 本田技術研究所
誤 (Incorrect)	$i_{M1_OUT}(s) = \frac{v_{M1_IN}(s) - v_{M2_IN}(s) - E_G(s)}{L_M \cdot s + R_M} \quad (21)$ $i_{M2_OUT}(s) = i_{M1_OUT}(s) \quad (22)$ $T_M(s) = K_M \cdot i_{M1_OUT}(s) \quad (24)$ $i_{M1_OUT} = f_1(v_{M1_IN}, v_{M2_IN}, \theta_{M_IN}, \omega_{M_IN}, a_{M_IN}) \quad (26)$ $i_{M2_OUT} = i_{M1_OUT} \quad (27)$
正 (Correct)	$i_{M2_OUT}(s) = \frac{v_{M1_IN}(s) - v_{M2_IN}(s) - E_G(s)}{L_M \cdot s + R_M} \quad (21)$ $i_{M1_OUT}(s) = -i_{M2_OUT}(s) \quad (22)$ $T_M(s) = K_M \cdot i_{M2_OUT}(s) \quad (24)$ $i_{M2_OUT} = f_1(v_{M1_IN}, v_{M2_IN}, \theta_{M_IN}, \omega_{M_IN}, a_{M_IN}) \quad (26)$ $i_{M1_OUT} = -i_{M2_OUT} \quad (27)$

学術講演会予稿集正誤表

(Errata of Proceedings/Summarized Papers)

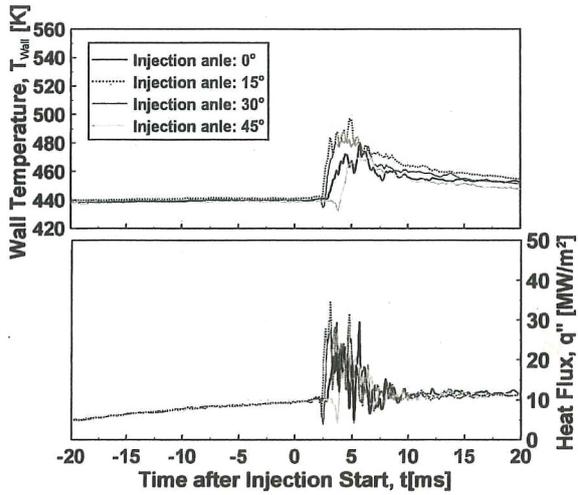
学術講演会 (セッション番号-セッション名) (SessionNo.-Session Name)	No.53 - 予防安全と運転支援システム -高齢者のための 知能化モビリティ-
講演者名 所属名	志野達弥 東京大学
誤 (Incorrect)	6 ページ目 1 行目及び 20 行目 Mann-Whitney U 検定
正 (Correct)	ウィルコクソンの符号順位検定

学術講演会予稿集正誤表
(Errata of Proceedings/Summarized Papers)

学術講演会 (セッション番号-セッション名) (SessionNo.-Session Name)	No.61 - ディーゼル燃焼
講演者名 所属名	鄭 載勳 (代理発表: 佐藤 進) 東京工業大学
誤 (Incorrect)	裏面に記載あり
正 (Correct)	裏面に記載あり

誤 (Incorrect)

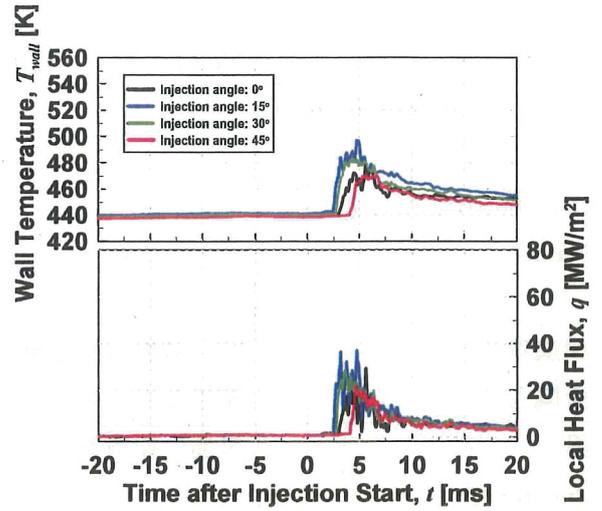
P.3 Fig.7 (a)



(a) TFT 1

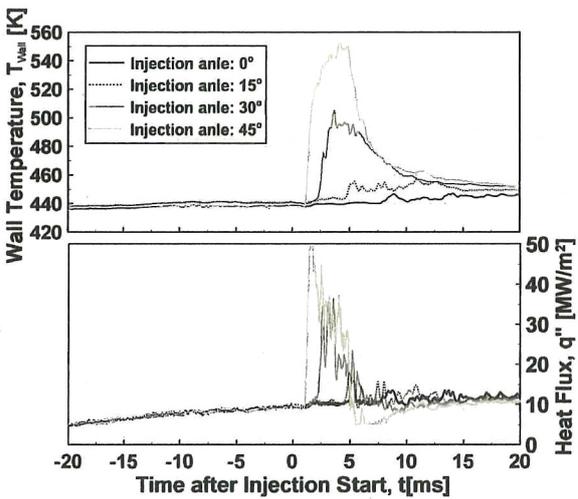
正 (Correct)

P.3 Fig.7 (a)



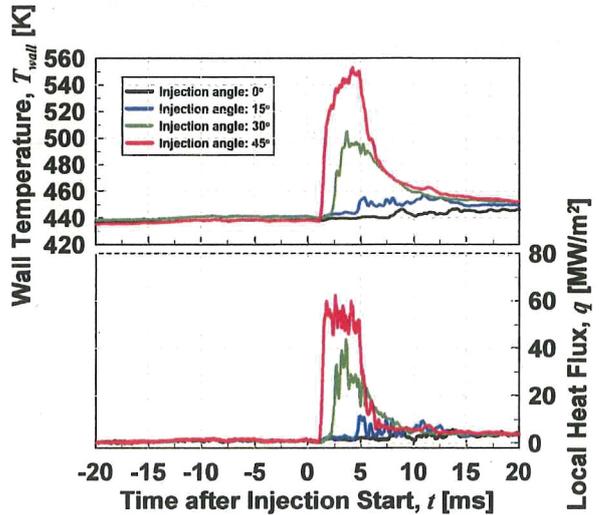
(a) TFT 1

P.3 Fig.7 (b)



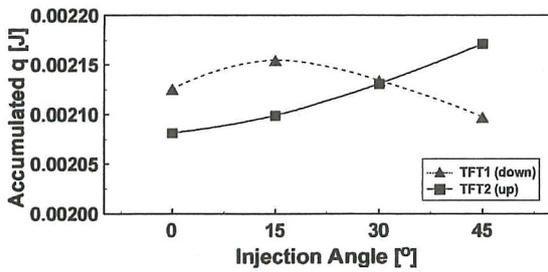
(b) TFT 2

P.3 Fig.7 (b)



(b) TFT 2

P.4 Fig.7



P.4 Fig.8

